ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P102	心理学研究法(Psychological Research Methods)	心理学基礎系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2年	福祉健康科学部	前期		氏名　中里　直樹 E-mail　nakazato-naoki@oita-u.ac.jp　内線　7530

授業の概要

心理学的な問題意識を起点として，それを研究としての「問題・目的」の設定に向けてどのように論理構成するか，それにふさわしいデータ収集法・分析法は何か，といった心理学研究の方法論全般について体系的に学習し，心理学の基礎的知識・技能を習得する。授業の過程では，文献の活用法，尺度構成法，PCによるデータ処理法なども取り入れる。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	心理学的な問題意識を研究ベースに高め，何らかの研究課題を提案できる。	○			○						
目標2	研究目的にふさわしいデータ収集法および統計解析方法を選択できる。	○		○	○						
目標3	調査票を構成し，データ収集ができる。	○		○	○						
目標4	コンピュータによる統計解析ができる。	○		○	○						
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	心理学研究法概論
2	実験的研究と相関的研究
3	相関関係と因果関係，相関分析と回帰分析
4	実験的研究(1)：実験法の特徴と利点
5	実験的研究(2)：実験計画法と分散分析
6	相関的研究(1)：調査法の特徴と利点
7	相関的研究(2)：調査項目と回答方法
8	測定と数量化(1)：尺度構成法
9	測定と数量化(2)：尺度の妥当性・信頼性
10	測定と数量化(3)：調査票の構成
11	PCによる統計解析(1)：因子分析および項目分析
12	PCによる統計解析(2)：重回帰分析
13	PCによる統計解析(3)：重回帰分析の発展形
14	研究課題と仮説の設定，質的研究
16	研究課題と研究倫理

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回のライティング課題やディスカッション，PCによる統計解析の実習を活用して，学生の動機づけを高め，深い学びに導く。また，グループで調査票を作成した上で，データ収集から統計解析までを行ってもらう。ライティングでの質問に対しては，次回の授業時に返答する。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	授業内容に関する予習（15h）
事後学修	授業で学習したことを配布資料や参考文献も用いて復習し，ライティング課題に取り組む（15h）。授業外での調査票作成及び15回分の授業内容についての総合的理解（15h）。

教科書

・「Excelで今すぐはじめる心理統計：簡単ツールHADで基本を身につける」小宮あすか，布井雅人著（2018），講談社
・適宜，資料を配布する。

参考書

・「なるほど！心理学研究法」　三浦麻子著（2017）北大路書房
・「なるほど！心理学調査法」　大竹恵子 編著（2017）北大路書房
・Research Methods in Psychology: Evaluating a World of Information (3rd ed.) Morling, H. (2017) W W Norton & Co Inc.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への積極的参加（質問やディスカッションへの積極的参加など）	15%	○		○							
ライティング課題	35%	○	○	○	○						
最終レポート	50%	○	○	○	○						

授業回数の3分の1を超えて欠席した場合，最終レポートを受理しない。

注意事項	「心理学統計法」を履修済みであることが望ましい。
備考	令和元年度（2019年度）以前入学生用。令和2年度（2020年度）入学生は，3年次（2022年度）に選択科目として履修してください。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P107	心理的アセスメント(Psychological Assessment)	心理学基礎系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　清口剛、村上裕樹、 E-mail　　内線

授業の概要

心理的アセスメントは心理臨床の現場においてはもちろんのこと，心理学研究の上でも用いられることが多い。この授業では，心理的アセスメントの目的，観点及び展開について解説し，観察，面接及び心理検査などの心理的アセスメントの方法と，その適切な記録及び報告について学ぶ。また，学生が検査者・被検査者となって実際に心理検査を実施し，自分の検査データに基づいて所見（レポート）を作成することを通して，心理検査の施行法や結果の整理，報告書の適切な書き方を体験的に学ぶ。その中で心理検査の効用と限界，倫理的諸問題についても考えを深めていく。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	心理的アセスメントの目的，観点，展開をふまえた上で，心理的アセスメントの方法について説明できる。	○									
目標2	心理検査の効用と限界，倫理的諸問題について説明できる。			○							
目標3	代表的な心理検査を実際に施行し，結果を整理し，解釈を行った上，で適切に報告書としてまとめることができる。			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	心理的アセスメントの目的，観点，展開，方法，理論モデル
2	心理検査の効用と限界，倫理，心理検査を用いたアセスメントの手順，報告書の書き方
3	樹木画テスト①（検査実習，概要と施行法）
4	樹木画テスト②（結果の整理と解釈，レポート課題）
5	文章完成法テスト①（検査実習，概要と施行法）
6	文章完成法テスト②（結果の整理と解釈，レポート課題）
7	YG性格検査①（検査実習，概要と施行法）
8	YG性格検査②（結果の整理と解釈，レポート課題）
9	神経心理学的アセスメントの特徴
10	三宅式記銘力検査
11	前頭葉機能検査（FAB）
12	ウィスコンシンカードソーティングテスト
13	Mini Mental State Examination (MMSE)
14	レーヴン色彩マトリックス検査（RCPM）
15	ベントン視覚記銘検査

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認		学生がペア（検査者・被検査者）なって実際に心理検査を実施し（ロールプレイ），自分の検査データに基づいて所見（レポート）を作成する。
B:意見の表現・交換		
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

学生が実際に心理検査を体験することによって，検査手順や倫理的問題についても実践的に学べるよう指導している。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	授業で取り上げる心理検査について，参考文献等に基づいて予習する（15h）。
事後学修	検査結果の整理やスコアリング等は，授業時間外に各自で行う課題となる（30h）。 各検査ごとに心理検査報告書（レポート）を書いて提出する（12h）。

教科書

教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。
心理検査の用具，マニュアル，解説書は貸与する。

参考書

石合 純夫　(2012).　高次脳機能障害学　第2版　医歯薬出版
松原達也（編著）（1976）.　心理テスト法入門　日本文化科学社
岡堂哲雄（編）（1993）.　心理検査学　垣内出版

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
課題への取組みおよび達成状況	50%	○	○	○							
レポート提出	50%	○	○	○							

注意事項

なし。

備考

なし。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師
実務経験をいかした教育内容	実際の用具を用いて，心理検査を体験学習する（実習）

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P202	神経心理学(Neurological Psychology)	生理認知心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　村上 裕樹 E-mail　murakami-hiroki@oita-u.ac.jp　内線　6106

授業の概要

脳の損傷によってもたらされる認知・行動・感情などの障害(高次脳機能障害)について紹介し,さらに人の脳活動を非侵襲的に測定することができる技術を用いたニューロイメージングにおける最新の知見についても紹介する。このような知見について学習することで，脳神経系の構造と機能、脳とこころの関連性について理解を深める。また，神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法について紹介する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	脳神経系の構造及び機能について説明できる。	○									
目標2	こころと脳の関連性について説明できる。	○									
目標3	高次脳機能障害について説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	神経心理学とは
2	脳神経系の構造及び機能①
3	脳神経系の構造及び機能②
4	失語
5	失読・失書
6	失行
7	行為・行動の障害
8	失認と関連症状①
9	失認と関連症状②
10	無視症候群・外界と身体の処理に関わる空間性障害①
11	無視症候群・外界と身体の処理に関わる空間性障害②
12	幅広い側面に関わる高次脳機能とその障害
13	認知症，せん妄，外傷性脳損傷による高次脳機能障害①
14	認知症，せん妄，外傷性脳損傷による高次脳機能障害②
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー。発問。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。
事後学修	授業で学んだことについての復習をし，紹介された参考文献について精読することで理解を深める（45h）。

教科書

なし。資料を配布する。

参考書

・石合 純夫 （2012）． 高次脳機能障害学　第2版　医歯薬出版
・利島 保（監修） （2015）． 脳神経心理学　朝倉書店
・山鳥 重 （1985）． 神経心理学入門　医学書院

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組み	50%	○	○	○							
レポート課題	50%	○	○	○							

注意事項

私語厳禁。
心理的アセスメント，心理演習を履修する人は受講してください。

備考

なし。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P202	神経心理学(神経・生理心理学)(Neuro- and Physiological Psychology)	生理認知心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　村上 裕樹 E-mail　murakami-hiroki@oita-u.ac.jp　内線　6106

授業の概要

脳の損傷によってもたらされる認知・行動・感情などの障害(高次脳機能障害)について紹介し，さらに人の脳活動を非侵襲的に測定することができる技術を用いたニューロイメージングにおける最新の知見についても紹介する。このような知見について学習することで，脳神経系の構造と機能、脳とこころの関連性について理解を深める。また，神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法について紹介する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	脳神経系の構造及び機能について説明できる。	○									
目標2	こころと脳の関連性について説明できる。	○									
目標3	高次脳機能障害について説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	神経心理学とは
2	脳神経系の構造及び機能①
3	脳神経系の構造及び機能②
4	失語
5	失読・失書
6	失行
7	行為・行動の障害
8	失認と関連症状①
9	失認と関連症状②
10	無視症候群・外界と身体の処理に関わる空間性障害①
11	無視症候群・外界と身体の処理に関わる空間性障害②
12	幅広い側面に関わる高次脳機能とその障害
13	認知症，せん妄，外傷性脳損傷による高次脳機能障害①
14	認知症，せん妄，外傷性脳損傷による高次脳機能障害②
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー。発問。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。
事後学修	授業で学んだことについての復習をし，紹介された参考文献について精読することで理解を深める（45h）。

教科書　なし。資料を配布する。

参考書
- 石合 純夫 (2012). 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版
- 利島 保 (監修) (2015). 脳神経心理学 朝倉書店
- 山鳥 重 (1985). 神経心理学入門 医学書院

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1.	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組み	50%	○	○	○							
レポート課題	50%	○	○	○							

注意事項　私語厳禁。
心理的アセスメント，心理演習を履修する人は受講してください。

備考　なし。

リンク　URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P201	生理心理学(Psychophysiology)	生理認知心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名　村上　裕樹 E-mail　murakami-hiroki@oita-u.ac.jp　内線　6108

授業の概要

緊張する場面で，手に汗を握ったり心臓がドクドクするといった経験をしたことはないでしょうか。ここまで意識できなくとも，日々の私たちのこころの活動と身体の反応は関連しています。この授業では，認知・感情などのこころの活動と生理反応との関連性について学習することで，こころのメカニズムについての理解を深めます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	こころの活動に関与する器官についての基礎的知識を説明できる。	○									
目標2	こころと身体の関連性について説明できる。	○									
目標3	生理指標を心理学研究に応用することができる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	生理心理学とは
2	脳と神経①
3	脳と神経②
4	脳波：背景脳波
5	脳波：事象関連電位の基礎①
6	脳波：事象関連電位の基礎②
7	脳波：事象関連電位の応用
8	自律神経活動：皮膚電気活動
9	自律神経活動：心拍
10	自律神経活動：血行力学的反応
11	自律神経活動の応用
12	免疫・内分泌系①
13	免疫・内分泌系②
14	動作と表情の測定
15	遺伝子と心理学

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー。発問。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。
事後学修	授業で学んだことについての復習をし，紹介された参考文献について精読することで理解を深める（15h）。

教科書　なし。資料を配布する。

参考書
- 堀忠雄　(2008)．生理心理学　培風館
- 宮田洋(監修)　(1997)．新生理心理学　1-3巻　北大路書房

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組み	50%	○	○	○							
レポート課題	50%	○	○	○							

注意事項　私語厳禁。
神経心理学を履修する人は受講してください。

備考　なし。

リンク　URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P204	認知心理学(Cognitive Psychology)	生理認知心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前		氏名　藤田　敦 E-mail　a-fujita@oita-u.ac.jp　内線　7614

授業の概要	人間が学習や問題解決などの情報処理活動を行う際に生じる感覚・知覚・記憶・認知・思考の心理過程について，科学的な観点から理解を深めていくことを目的とする。特に，知識（記憶）が，いかに形成されていくのかを理解し，認知的・心理的な問題との関係を考察する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	認知心理学の科学的・専門的な知識を説明することができる。	○									
目標2	実験的な手法で，認知過程を客観的に観察・記録・分析できる。			○							
目標3	認知心理学と日常の社会的生活を関係づけて説明できる。	○									
目標4	認知理論と学習活動・社会活動・臨床的問題を関係づけることができる。			○							
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	認知心理学の定義と方法
2	心理物理学と感覚能力の特徴
3	初期知覚における同化・対比・残像
4	３次元世界と運動の知覚
5	知覚の体制化～群化・分化・完結化
6	高次情報処理過程～情報処理モデルによる説明
7	感覚記憶と注意過程
8	注意能力と短期記憶
9	注意力の障害
10	記憶モデルと短期記憶
11	作業記憶における情報処理
12	長期記憶の構造と内容
13	長期記憶の体制化と忘却
14	問題解決と推論
15	認知心理学の総括と展望

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		認知実験の体験や意見発表の場を設ける。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配布資料を利用して予習する。
事後学修	専門用語を中心に，講義における学習内容を整理する。

教科書	使わない。講義の際に適宜資料を配布する。
参考書	講義中に紹介する。

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	80%	○									
小課題	20%			○							

注意事項	学びを深めるために，講義者から出される発問や課題に対して，積極的に取り組むこと。
備考	無し
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H03DP204	知覚・認知心理学(Psychology of Perception & Cognition)	生理認知心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前		氏名　藤田　敦 E-mail　a-fujita@oita-u.ac.jp　内線　7614

授業の概要

人間が学習や問題解決などの情報処理活動を行う際に生じる感覚・知覚・記憶・認知・思考の心理過程について，科学的な観点から理解を深めていくことを目的とする。特に，知識（記憶）が，いかに形成されていくのかを理解し，認知的・心理的な問題との関係を考察する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	認知心理学の科学的・専門的な知識を説明することができる。	○									
目標2	実験的な手法で，認知過程を客観的に観察・記録・分析できる。			○							
目標3	認知心理学と日常の社会的生活を関係づけて説明できる。	○									
目標4	認知理論と学習活動・社会活動・臨床的問題を関係づけることができる。			○							
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	認知心理学の定義と方法
2	心理物理学と感覚能力の特徴
3	初期知覚における同化・対比・残像
4	3次元世界と運動の知覚
5	知覚の体制化～群化・分化・恒常化
6	高次情報処理過程～情報処理モデルによる説明
7	感覚記憶と注意過程
8	注意能力と短期記憶（作業記憶）
9	注意力・作業記憶の障害
10	記憶モデルと短期記憶
11	作業記憶における情報処理
12	長期記憶の構造と内容
13	長期記憶の体制化と忘却
14	思考と問題解決の過程
15	日常的認知のスタイルと臨床的問題の関連

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		認知実験の体験や意見発表の場を設ける。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配布資料を利用して予習する。（5h）
事後学修	専門用語を中心に，講義における学習内容を整理する。（5h）

教科書	使わない。講義の際に適宜資料を配布する。
参考書	講義中に紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	80%	○		○							
小課題	20%		○		○						

注意事項	学びを深めるために，講義者から出される発問や課題に対して，積極的に取り組むこと。
備考	無し
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P205	感情心理学(感情・人格心理学B)(Psychology of Emotion)	生理認知心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1(令和2年度入学生)・3	福祉健康科学部	後期		氏名　村上 裕樹 E-mail　murakami-hiroki@oita-u.ac.jp　内線　6106

授業の概要

感情研究のさまざまな知見について学び，感情の理論についての理解を深めます。感情は意識できるものだけではなく，自分でも意識できない感情もあります。そのような点も踏まえ，感情の生物学的基礎を理解した上で，客観的な感情の測定方法について学びます。また，感情が人の行動に及ぼす影響や，感情のコントロールの仕方について理解し，感情の理論を心理学研究に応用する技術を身につけます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	感情の理論を説明できる。	○									
目標2	感情の理論を応用することができる。	○									
目標3	感情の理論を心理学研究に応用することができる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	感情心理学とは
2	感情の生物学的基盤　中枢神経系
3	感情の生物学的基盤　末梢神経系，神経伝達物質，HPA系
4	感情の理論　感情の起源
5	感情の理論　認知が先か感情が先か
6	感情の機能
7	感情と進化　個体の安全と生存に関わる感情
8	感情と進化　集団生活に関わる感情
9	感情と認知
10	感情と目撃証言
11	感情と発達
12	感情と自己注目
13	感情と適応的・不適応的自己注目
14	感情と遺伝子
15	感情と健康

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー。発問。
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。
事後学修	授業で学んだことについての復習をし，紹介された参考文献について精読することで理解を深める(45h)。

教科書

なし。資料を配布する。

参考書

・大平英樹(編)　(2010). 感情心理学　有斐閣アルマ
・北村英哉・木村晴　(2006). 感情研究の新展開　ナカニシヤ出版

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組み	50%	○	○	○							
レポート課題	50%	○	○	○							

注意事項

私語厳禁。

備考

なし。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P402	対人関係と家族の心理学(社会・集団・家族心理学A)(Theory and Practice on Clinical Psychology)	社会・産業心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　池永恵美・飯田法子 E-mail　m-ikenaga@oita-u.ac.jp　内線　6107

授業の概要

我々は様々な人間関係や集団の中で生きており、本講義では人と人との相互作用や個人と集団との関係、家族の諸問題について学習とする。具体的には、前半は対人場面における人間行動や人と人とのコミュニケーション、集団の機能、集団心理療法の理論と方法について学び、対人関係（二者関係～集団）において起こる様々な心理的現象を理解するための基本的知識を習得する。また後半については、家族の構造や家族の発達の視点を学んだ上で、現代の家族にみられる臨床的諸問題や家族への支援の方法について基本的知識を習得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	人間関係における様々な対人行動について説明できる。	○									
目標2	集団の特徴、集団が成員に対して及ぼす影響について説明できる。	○	○								
目標3	集団心理療法の目的・方法について説明できる。	○	○								
目標4	家族の構造的特徴や家族の発達や現代の家族が抱えている課題について心理学的な視点から説明できる	○									
目標5	家族への心理臨床的な支援の方法について説明できる	○	○								
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	他者とのつきあい①（対人認知、対人魅力）
2	他者とのつきあい②（自己開示と自己呈示）
3	他者とのつきあい③（援助行動とソーシャルサポート）
4	集団の機能
5	集団心理療法とは（心理劇実習）
6	集団心理療法の実際（心理劇実習）役割演技体験
7	集団心理療法の実際（心理劇実習）ロールリバース、ダブル、ミラー
8	中間試験
9	家族とは何か（家族の構造）
10	家族の発達①（成人期、結婚による家族の成立期）
11	家族の発達②（子育て期、老年期の家族）
12	家族の中のコミュニケーション
13	家族の抱える問題と支援①（虐待、発達障害）
14	家族の抱える問題と支援②（夫婦紛争、介護）
15	家族への心理臨床的支援（家族療法）

アクティブラーニング		その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー、体験活動
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造		

時間外学修の内容と時間の目安	
事前学修	配布資料やインターネット、参考文献等を用いて必要に応じて予習する（5h）。
事後学修	授業で配布したプリントや参考文献を用いて復習する（15h）。

教科書

教科書は指定しない。
授業中に配布するプリントを使用する。
Moodle上に資料を掲載する場合もある。（事前に告知する）

参考書

山岸俊男編：「社会心理学キーワード」、有斐閣双書、2001
池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子著：「社会心理学」、有斐閣、2010
中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子 著：「家族心理学」、有斐閣ブックス、2019

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
中間試験	30%	○	○	○							
学期末試験	30%				○	○					
ミニッツペーパーの内容	40%	○	○	○	○	○					

注意事項	なし
備考	なし
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公認心理師・臨床心理士（池水恵美・飯田法子）
実務経験をいかした教育内容	多機関での家族支援について、モデルケースを通して事例検討を行い、家族支援の知識を習得する

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P402	対人関係論(Psychology of Human Relations)	社会・産業心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　池永憲美・飯田法子 E-mail　m-ikenaga@oita-u.ac.jp　内線　6107

授業の概要

我々は様々な人間関係や集団の中で生きており、本講義では人と人との相互作用や個人と集団との関係、家族の諸問題について学習とする。具体的には、前半は対人場面における人間行動や人と人とのコミュニケーション、集団の機能、集団心理療法の理論と方法について学び、対人関係（二者関係～集団）において起こる様々な心理的現象を理解するための基本的知識を習得する。また後半については、家族の構造や家族の発達の視点を学んだ上で、現代の家族にみられる臨床的諸問題や家族への支援の方法について基本的知識を習得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	人間関係における様々な対人行動について説明できる。	○									
目標2	集団の特徴、集団が成員に対して及ぼす影響について説明できる。	○	○								
目標3	集団心理療法の目的・方法について説明できる。	○	○								
目標4	家族の構造的特徴や家族の発達や現代の家族が抱えている課題について心理学的な視点から説明できる	○									
目標5	家族への心理臨床的な支援の方法について説明できる	○	○								
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	他者とのつきあい①（対人認知、対人魅力）
2	他者とのつきあい②（自己開示と自己呈示）
3	他者とのつきあい③（援助行動とソーシャルサポート）
4	集団の機能
5	集団心理療法とは（心理劇実習）
6	集団心理療法の実際（心理劇実習）役割演技体験
7	集団心理療法の実際（心理劇実習）ロールリバース、ダブル、ミラー
8	中間試験
9	家族とは何か（家族の構造）
10	家族の発達①（成人期、結婚による家族の成立期）
11	家族の発達②（子育て期、老年期の家族）
12	家族の中のコミュニケーション
13	家族の抱える問題と支援①（虐待、発達障害）
14	家族の抱える問題と支援②（夫婦紛争、介護）
15	家族への心理臨床的支援（家族療法）

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー、体験活動	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配布資料やインターネット、参考文献等を用いて必要に応じて予習する（5h）。
事後学修	授業で配布したプリントや参考文献を用いて復習する（15h）。

教科書

教科書は指定しない。
授業中に配布するプリントを使用する。
Woodle上に資料を掲載する場合もある。（事前に告知する）

参考書

山岸俊男編：「社会心理学キーワード」、有斐閣双書、2001
池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子著：「社会心理学」、有斐閣、2010
中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子 著:「家族心理学」、有斐閣ブックス、2019

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9.	目標10
中間試験	30%	○	○	○							
学期末試験	30%				○	○					
ミニッツペーパーの内容	40%	○	○	○	○	○					

注意事項	なし
備考	なし
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公認心理師・臨床心理士（池水恵美・飯田法子）
実務経験をいかした教育内容	多機関での家族支援について、モデルケースを通して事例検討を行い、家族支援の知識を習得する

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P509	医療心理学(健康・医療心理学B)(Medical Psychology(Health and Medical Psychology B))	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名　溝口剛 E-mail　t-mizo@oita-u.ac.jp　内線　7522

授業の概要

医療保健領域における心理社会的課題及び必要な支援について概説し，医療現場における心理職の仕事，役割，課題などについて学ぶ。また，医療現場に特有の問題に対応する上で，心理職が身に着けておくべき姿勢や視点，知識，技能などについて，文献・映画・事例などを通して学ぶ。災害時に必要な心理に関する支援についても触れる。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	医療保健領域における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。	○									
目標2	医療現場における心理職の仕事，役割，課題について説明できる。	○									
目標3	患者や家族，医療従事者が直面する多様な心理的問題について説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション（医療現場と心理職）
2	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援①（医療現場を支える基本的枠組み）
3	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援②（医療における医療者―患者関係）
4	保健活動が行われている現場における心理社会的課題および必要な支援
5	精神病患者と心理職（精神科医療における心理職の役割）
6	精神病患者の人生と家族①（映画『ビューティフルマインド』を通して）
7	精神病患者の人生と家族②（解説―患者と家族の苦悩―）
8	精神病患者とデイケア（精神科医療における心理社会療法）
9	周産期・新生児医療における心理職
10	小児科・小児保健における心理職
11	対象喪失と喪の仕事①（映画『マイガール』を通して）
12	対象喪失と喪の仕事②（解説―対象喪失と喪の仕事―）
13	糖尿病患者と心理職
14	がん患者と心理職
15	災害時に必要な心理に関する支援

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	毎回授業の終わりに質問や感想を記入したライティングを提出させる。次回の授業冒頭でライティングの内容を取り上げて解説を加えることによって，対話型の授業となるよう努めると同時に，学生のさらなる省察を深める。
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

子どもの情緒的問題や不適応，精神病理等を講義する際には，視聴覚教材（ビデオ教材）や事例等を積極的に活用することによって，より具体的かつ共感的な理解を促進する。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	各回で取り上げるテーマに関して，参考文献等に基づいて予習する（15h）。
事後学修	授業で学習したことを活かし，配布資料や参考文献を用いて復習する（30h）。

教科書　教科書は指定しない。適宜，資料を配布する。

参考書　医療と臨床心理士『臨床心理学　通巻31号』　金剛出版　2006年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
ライティング	50%	○	○	○							
最終レポート	50%	○	○	○							

注意事項　無し。

備考　無し。

リンク　URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師
実務経験をいかした教育内容	事例を交えて講義することによって，より共感的な理解を促し，省察を深める。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P506	教育臨床心理学Ⅰ(Clinical Psychology for Education I)	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3年	福祉健康科学部	前期		氏名　武内珠美・溝口剛・渡辺亘 E-mail　ttakeuti@oita-u.ac.jp：t-mizo@oita-u.ac.jp:wwata@oita-u.ac.jp　内線　7611

授業の概要

臨床心理学の中で、教育領域に関する科目である。子どもの発達支援や子どもの領域にかかわる人にとっては、必須の科目となる。学校現場で子どもが起こしている多様化し、複雑化、困難化している問題に対処するために、基本的・実践的な考え方や態度・技能を身につける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応のあり方やチーム学校としての動き方について具体的に論じる。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	社会的状況を踏まえて、小・中・高校現場に発生している教育相談的(教育臨床的)な諸課題を説明できる。		○								
目標2	児童生徒に発生しやすい心理的な問題について認知面と情緒面から理解を作り，説明できる。	○									
目標3	それらの問題や課題について、学校現場でどのように対応・支援を行い、チーム学校として機能するか説明できる。	○	○	○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	教育相談（教育臨床学）で何を学ぶか（オリエンテーション）
2	小学校における教育臨床的問題の実際と取り組み（現場の先生から）
3	中学校における教育臨床的問題の実際と取り組み（現場の先生から）
4	高等学校における教育臨床的問題の実際と取り組み（現場の先生から）
5	校内での連携と校外の専門機関との連携・チーム学校について（現場の先生から）
6	児童生徒が発生しやすい問題と社会的背景
7	児童生徒の心理的問題のアセスメント
8	児童生徒の心理的問題の支援技法
9	児童生徒の神経症的問題１（いじめなど友人関係トラブル）
10	児童生徒の神経症的問題２（不登校など思春期内閉）
11	児童生徒との関係づくり（ロールプレイ実習）
12	学校における危機管理・危機対応
13	保護者の心理と保護者との連携
14	保護者との関係づくり（ロールプレイ実習）
15	チーム体制・コラボレーションによる教育相談の事例

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	固定化したグループによるディスカッションや発表の形式を取り入れる。学校現場で生じる幼児・児童・生徒の問題・課題に対して、教員養成の学生と一緒に、心理職として対応していくときの実際について学べるように工夫する。毎回講義の最後にライティングを課す。	学校教師と臨床心理士が各々の実践に基づいた授業をおこなうことによって，教師とスクールカウンセラーの視点や専門性の違い、他職種連携について学ぶことができる。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	ニュースなどから社会的問題、家族の問題、子どもの問題、教育上の問題などについて情報を得るように努める（15h）。
事後学修	授業で学習したことを活かし，配布資料や参考文献を用いて復習する（30h）。

教科書	「教育臨床の実際　第2版」武内ら、ナカニシヤ出版
参考書	「生徒指導提要」文部科学省　中央教育審議会答申　など　　講義の中でも紹介していく

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
毎回の講義最後のライティング	60%	○	○	○							
最終テスト	40%	○	○								

注意事項	なし
備考	なし 【地域創生教育科目】
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士および公認心理師（武内珠美、溝口剛、渡辺亘）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	教員・元教員（＃２～＃５まで）
実務経験をいかした教育内容	教員と臨床心理士・公認心理師（スクールカウンセラー）との視点や専門性の違いや、他職種連携について学ぶことができる

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P506	教育臨床心理学Ⅰ(教育・学校心理学)(Clinical Psychology for Education I(Educational and School Psychology)) *大分を創る科目	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　武内珠美・清口剛・渡辺亘 E-mail　ttakeuti@oita-u.ac.jp : t-mizo@oita-u.ac.jp:wwata@oita-u.ac.jp　内線　7611

授業の概要

臨床心理学の中で、教育領域に関する科目である。子どもの発達支援や子どもの領域にかかわる人にとっては、必須の科目となる。学校現場で子どもが起こしている多様化し、複雑化、困難化している問題に対処するために、基本的・実践的な考え方や態度・技能を身につける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応のあり方やチーム学校としての動き方について具体的に論じる。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	社会的状況を踏まえて、小・中・高校現場に発生している教育相談的(教育臨床的)な諸課題を理解する		○								
目標2	児童生徒に発生しやすい心理的な問題について認知面と情緒面から理解を作る	○									
目標3	それらの問題や課題について、学校現場でどのように対応・支援を行い、チーム学校として機能するか学ぶ	○	○	○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	教育相談（教育臨床学）で何を学ぶか（オリエンテーション）
2	小学校における教育臨床的問題の実際と取り組み（現場の先生から）
3	中学校における教育臨床的問題の実際と取り組み（現場の先生から）
4	高等学校における教育臨床的問題の実際と取り組み（現場の先生から）
5	校内での連携と校外の専門機関との連携・チーム学校について（現場の先生から）
6	児童生徒が発生しやすい問題と社会的背景
7	児童生徒の心理的問題のアセスメント
8	児童生徒の心理的問題の支援技法
9	児童生徒の神経症的問題１
10	児童生徒の神経症的問題２
11	児童生徒との関係づくり（ロールプレイ）
12	学校における危機管理・危機対応
13	保護者の心理と保護者との連携
14	保護者との関係づくり（ロールプレイ実習）
15	チーム体制・コラボレーションによる教育相談の事例

アクティブラーニング		工夫その他の
A:知識の定着・確認	○	固定化したグループによるディスカッションや発表の形式を取り入れる。学校現場で生じる幼児・児童・生徒の問題・課題に対して、教員養成の学生と一緒に、心理職として対応していくときの実際について学べるように工夫する。毎回講義の最後にライティングを課す。
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造		

学校教師と臨床心理士が各々の実践に基づいた授業をおこなうことによって，教師とスクールカウンセラーの視点や専門性の違い、他職種連携について学ぶことができる。

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	ニュースなどから社会的問題、家族の問題、子どもの問題、教育上の問題などについて情報を得るように努める（15h）。
事後学修	授業で学習したことを活かし，配布資料や参考文献を用いて復習する（30h）。

教科書	「教育臨床の実際　第2版」武内ら、ナカニシヤ出版
参考書	「生徒指導提要」文部科学省　中央教育審議会答申　など　講義の中でも紹介していく

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
毎回の講義最後のライティング	60%	○	○	○							
最終テスト	40%	○	○								

注意事項	なし
備考	なし 【地域創生教育科目】
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士および公認心理師（武内珠美、清口剛、渡辺亘）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	教員・元教員（＃２～＃５まで）
実務経験をいかした教育内容	教員と臨床心理士・公認心理師（スクールカウンセラー）との視点や専門性の違いや、他職種連携について学ぶことができる.

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P507	教育臨床心理学Ⅱ(Clinical Psychology for Education II)	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	後期		氏名　溝口剛，武内珠美，渡辺亘 E-mail　t-mizo@oita-u.ac.jp　内線　7622

授業の概要

臨床心理学の領域の中でも，学校における子ども，保護者等を対象とする教育臨床領域について，その理論と実際について学ぶ。具体的には，不登校やいじめ，さらには思春期に生じやすい教育臨床的問題の理解と対応についても取り上げ，学校における心理支援（スクールカウンセリング等）のあり方について学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	学校現場における心理専門職（スクールカウンセラー）の役割や技能について説明できる。	○									
目標2	不登校やいじめなど，学校現場でスクールカウンセラーが直面しやすい教育臨床的問題について説明できる。	○									
目標3	多職種連携など，学校現場における心理支援（スクールカウンセリング）のあり方について，説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	教育臨床心理学Ⅱで何を学ぶか（オリエンテーション）
2	学校現場と心理専門職（スクールカウンセラーの定義・歴史・役割・技能）
3	スクールカウンセリングにおけるアセスメント
4	スクールカウンセラーの支援技法
5	不登校問題の理解と支援
6	いじめ問題の理解と支援
7	発達障害の理解と支援
8	発達障害の理解と支援（反社会的問題行動含む）
9	虐待問題の理解と支援
10	自傷行為の理解と支援
11	摂食障害の理解と対応
12	保護者への対応
13	校内における協力体制
14	学校における危機管理と危機対応
15	教員のメンタルヘルス

アクティブラーニング			
A:知識の定着・確認	○	毎回授業の終わりに質問や感想を記入したライティングを提出させる。次回の授業冒頭でライティングの内容を取り上げて解説を加えることによって，対話型の授業となるよう努めると同時に，学生のさらなる省察を深める。	その他の工夫：事例等を交えて講義することによって，より実践的な理解を促し，省察を深める。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
事前学修	日頃からニュース番組や新聞などを通じて，学校教育におけるさまざまな問題に関する情報を得るように努める（15h）。
事後学修	授業で学習したことを活かし，配布資料や参考文献を用いて復習する（30h）。

教科書	『教育臨床の実際　第2版』武内ら，ナカニシヤ出版，2018
参考書	授業の中で適宜紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
ライティング	50%	○	○	○							
最終レポート	50%	○	○	⊙							

注意事項	無し。
備考	無し。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士・公認心理師（澤口剛，武内珠美，渡辺可）
実務経験をいかした教育内容	事例等を交えて講義することによって，より実践的な理解を促し，省察を深める。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P503	高齢者臨床心理学(Clinical Geropsychology)	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名　岩野　卓 E-mail　iwano-suguru@oita-u.ac.jp　内線　6108

授業の概要

この講義では，高齢者を中心とした臨床的問題の理解と対応について学習します。代表的な問題である認知症をはじめ，老年期の抑うつ症状や行動上の問題，また介護家族の心の問題などを紹介します。また，医療福祉機関における臨床場面での具体的な注意点や技術について学び，各自に試みてもらいます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	高齢者とその周囲に起こる心理学的問題を説明できる。	○	○								
目標2	高齢者に関する臨床心理学的技術を示すことができる。	○		○	○						
目標3	高齢者の問題に対する対処方法を提示できる。	○		○	○						
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	高齢者に関わる心理学的問題
2	認知症①
3	認知症②
4	高齢期の精神疾患
5	高齢期の様々な問題
6	ターミナルケアと死
7	介護と介護者
8	家族と死別
9	神経心理学的検査
10	様々な検査
11	心理学的介入①
12	心理学的介入②
13	環境への介入
14	高齢者臨床心理学の実際
15	高齢者臨床心理学のまとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	グループディスカッション，ロールプレイ，技法の実演と模倣，課題自己探索型のレポート，感想シートを利用した学生からの意見収集と教員からのフィードバック
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫：映像資料の使用，科目担当者の関わる地域高齢者関連の業務の紹介，実際に使用される心理検査の紹介と所見の作成練習。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	レポート作成の準備（2h）。
事後学修	配布資料の復習（15h）

教科書：資料を配布します。

参考書：公益財団法人日本老年精神医学会　2009　改訂・老年精神医学講座；総論　株式会社ワールドプランニング
日野原重明　2013　臨床老年医学入門―すべてのヘルスケア・プロフェッショナルのために　医学書院

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	20%	○	○								
期末試験	80%	○	○	○							

注意事項：受講生の希望や理解を反映するため，講義内容に関する感想や意見を毎回の講義で提出して頂きます。

備考：なし。

リンク：URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士として精神科医療機関に勤務。公認心理師。
実務経験をいかした教育内容	高齢期の臨床業務の実際や，実施している検査について説明する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P508	産業・組織心理学(Inductrial and Organizational Psychology)	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	4	福祉健康科学部	前期		氏名　岩野　卓 E-mail　iwano-suguru@oita-u.ac.jp　内線　6108

授業の概要

産業活動は社会の基盤であり，多くの人と関わりのある分野です。近年の産業場面の改革により，就労者を取り巻く心理学的問題も増加しました。この講義では，学生が就労後に役立つであろう知識や，産業場面の心理職業務を紹介します。また，積極的かつ創造的な態度を身につけることも目的とします。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	産業場面における臨床心理学の知見を説明できる。	○	○		○						
目標2	科学的な視点から産業場面の問題に対して解決案を提示できる。		○		○						
目標3	積極的かつ論理的にアイディアを提案できる。	○		○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	産業場面の心理学
2	キャリア形成
3	産業場面の心理学の歴史と現在
4	職場のストレス①
5	職場のストレス②
6	産業場面の心理の仕事①
7	産業場面の心理の仕事②
8	組織行動と集団行動
9	労働関連法規
10	ハラスメントと就労規則
11	パフォーマンスマネジメント
12	ワーク・エンゲイジメント
13	産業臨床心理学の実践①
14	産業臨床心理学の実践②
15	まとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	グループディスカッション，プレゼンテーション，問題事例の解決方立案，ミニッツペイパー，調べ学習（インターネット）
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫：特定の課題に対してグループごとに意見をまとめてもらいプレゼンテーションを行う。Moodleを使い，どのグループの意見が説得力があるかを競わせ，その場で結果をフィードバックする。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	プレゼンテーションのための準備（8h）
事後学修	配布資料の復習（15h）

教科書：資料を配布します。

参考書：CPI研究会他　2006　産業心理臨床入門　ナカニシヤ出版
島悟・佐藤志美　2010　職場ストレスでへこまない実践テクニック　エクスナレッジ

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組みおよびミニレポート	30%	○	○	○							
プレゼンテーション	70%			○							

注意事項：受講生の希望や理解を反映するため，講義内容に関する感想や意見を毎回の講義で提出して頂きます。
各回で希望者を募りプレゼンテーションを実施します。

備考：講義中にMoodleを利用するので，インターネット接続可能な端末を準備して下さい。

リンク
URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	産業カウンセラー及び中央労働災害防止協会認定相談員としてEAPに勤務。公認心理師。
実務経験をいかした教育内容	企業や就労者のニーズと産業臨床場面の現実について説明する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P514	福祉心理学(Psychology for Social Welfare)	臨床心理学系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	4	福祉健康科学部	前期		氏名　飯田法子 E-mail　ilda-noriko@oita-u.ac.jp　内線　6146

授業の概要

本科目では心理学の中でも応用的で新しい分野とされ、公認心理師の分野の一つである「福祉心理学」の基本的知識や理論について学ぶ。福祉心理学全体を「生活を包括的に支援する」視点で理解した上で、法制度や具体的な福祉施設、要支援者の心理的理解や心理支援についてイメージできるよう、調べ学習による発表等アクティブラーニングを通して学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	福祉分野における心理支援の理論的背景を説明できる	○	○								
目標2	福祉分野における要支援者の心理的背景を説明できる	○	○								
目標3	福祉分野における心理支援の方法について説明できる	○	○								
目標4	福祉分野において心理職が従事する施設や制度について説明することができる	○	○								
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	福祉心理学の概説
2	福祉分野の制度と要支援者の理解1　児童（子育て支援）
3	福祉分野の制度と要支援者の理解2　児童（虐待　社会的養護）
4	福祉分野の制度と要支援者の理解3　発達障害をどう捉えるか
5	福祉分野の制度と要支援者の理解4　障害児
6	福祉分野の制度と要支援者の理解5　障害者（身体障害者・知的障害者・精神障害者）
7	福祉分野の制度と要支援者の理解6　高齢者
8	福祉分野の心理支援　グループ発表1　子育て支援
9	福祉分野の心理支援　グループ発表2　児童（虐待　社会的養護）
10	福祉分野の心理支援　グループ発表3　障害児
11	福祉分野の心理支援　グループ発表4　障害者
12	福祉施設の心理支援　グループ発表5　高齢者
13	ひきこもり支援
14	災害等への支援
15	福祉心理学の今後の展開と課題

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	ミニッツペーパー　グループによる調べ学習の発表
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫：ディスカッション

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	グループによる調べ学習の発表のための準備 配布資料やインターネット、参考文献を用いて必要に応じて予習する（8h）
事後学修	ミニッツペーパーによる振り返りとレポート（8h）

教科書：川畑隆　笹川宏樹　宮井研治　編著　福祉心理学（川畑直人・大島剛・鄭式徹　監修　公認心理師の基本を学ぶテキスト17）　ミネルヴァ書房　2020年

参考書：授業の中で適宜紹介する

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
グループ発表の内容	35%	○	○	○	○						
学期末試験（レポート）	35%	○	○	○	○						
ミニッツペーパーの内容	30%	○	○								

注意事項：ディスカッションにおいて積極的に発言すること。グループ発表に積極的に取り組むこと。

備考：グループ発表については、初回にグループ分けやテーマ等について説明する。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公認心理師　臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	モデルケースを通して福祉分野の事例検討を行い心理学的な理解と支援について学ぶ

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H020P701	精神疾患とその治療Ⅰ(Mental Illness and Its Treatment Ⅰ)	隣接領域系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名　河野健太郎、薬野浩司、平川博文、釘宮毅、堂長祐彩、工藤治彦 E-mail　　内線

授業の概要	精神医学では、精神疾患の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。本講では、精神医学の歴史や診断法・症状評価、主たる精神障害をみていくことにする。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	精神医学の総論を理解し、説明することができる。		○									
目標2	精神症状・状態像の理解と診断法について学び、説明することができる。				○							
目標3	精神科における代表的な疾患を理解し、説明することができる。		○									
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容	
1	精神医学概論(精神医学・医療の歴史、精神現象の生物学的基礎)
2	精神障害の理解(精神障害の概念、精神疾患の診断分類)
3	精神疾患の症状と診断、検査
4	代表的な疾患とその症状、経過、予後(器質性精神障害)
5	代表的な疾患とその症状、経過、予後(精神作用物質による精神および行動の障害)
6	代表的な疾患とその症状、経過、予後(統合失調症)
7	代表的な疾患とその症状、経過、予後(気分障害)
8	代表的な疾患とその症状、経過、予後(神経症性障害・生理的障害・パーソナリティ障害)
9	代表的な疾患とその症状、経過、予後(知的障害・発達障害)
10	代表的な疾患とその症状、経過、予後(小児期・青年期の行動および情緒の障害)
11	精神疾患の治療
12	精神医療の動向
13	精神科医療機関における治療
14	精神科治療における人権擁護、精神保健福祉士の役割
15	精神医療と保健、福祉の連携の重要性

アクティブラーニング			工夫	その他の工夫
	A:知識の定着・確認		適宜、質問やミニディスカッションなどを通し積極的に学生が考え学ぶことができるようにする。	
	B:意見の表現・交換	○		
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	必要に応じて教科書を読み、予習をする(15h)。
	事後学修	授業で学習したことを復習する(30h)。

教科書	最新精神保健福祉士養成講座『1 精神医学と精神医療』(中央法規出版、2021年)
参考書	太田保之・上野武治編『学生のための精神医学』(医歯薬出版、2014年)

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
学期末試験	90%	○	○	○							
授業への参加の積極度	10%	○	○	○							

注意事項	なし
備考	なし
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	医師（小児科専門医，宇宙航空医学認定医，日本医師会認定産業医），自衛官（元・航空自衛隊航空医官，予備自衛官），元・宇宙開発事業団医長，産業医
実務経験をいかした教育内容	臨床や健康管理業務での経験に基いた教育を心掛けたい。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H040S220	精神保健学Ⅰ(Mental Health I)	隣接領域系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477

授業の概要

精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。
本講では、「心の健康」と「心の危機」についての心理社会的側面をみていくことにする。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	「心の健康」「心の危機」「心の病気」について理解できる	○									
目標2	ライフサイクルごとの「心の問題」について学ぶことができる	○									
目標3	家庭や職場などの環境ごとの「心の問題」について学ぶことができる	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	精神保健の概要
2	精神保健の歴史・課題
3	乳幼児期・学童期のメンタルヘルス
4	思春期・青年期のメンタルヘルス
5	成人期・老年期(高齢者)のメンタルヘルス
6	ストレスと心の病気
7	精神の健康
8	精神の健康への関与と支援
9	家庭におけるメンタルヘルス(1)
10	家庭におけるメンタルヘルス(2)
11	学校におけるメンタルヘルス(1)
12	学校におけるメンタルヘルス(2)
13	職場におけるメンタルヘルス(1)
14	職場におけるメンタルヘルス(2)
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	学修成果物の作成	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	テキストを事前に読んでおく (10h)
事後学修	教材を用いて復習する (10h)

教科書: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟.新・精神保健福祉士養成講座「精神保健の課題と支援」(中央法規) 2018

参考書: 太田保之・上野武治.「学生のための精神医学」(医歯薬出版) 2014

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
学修成果物	70%	○	○	○							
総合的に評価する	30%	○	○	○							

注意事項: なし

備考: なし

リンク: URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H040S221	精神保健学Ⅱ(Mental Health II)	隣接領域系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477

授業の概要

精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。
本講では、心の病気の予防やケアについて検討する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	「統合失調症」「アルコール依存症」「認知症」などの精神障害について理解できる	○									
目標2	こうした精神障害の予防やケアについて学ぶことができる	○									
目標3	国内外の精神医療や精神保健について概観することができる	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	統合失調症(1)
2	統合失調症(2)
3	発達障害者に対する対策
4	アルコール問題に対する対策
5	薬物依存対策
6	うつ病と自殺防止対策
7	認知症高齢者に対する対策(1)
8	認知症高齢者に対する対策(2)
9	社会的ひきこもり、ニート、ホームレス
10	災害時の精神保健
11	精神保健福祉士、性同一性障害
12	ターミナルケアと精神保健
13	地域精神保健の概要
14	世界の精神保健
15	講義内容全体についての討論

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	学修成果物の作成	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	テキストを事前に読んでおく (10h)
事後学修	教材を用いて復習する (10h)

教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟.新・精神保健福祉士養成講座「精神保健の課題と支援」(中央法規) 2018
参考書	太田保之・上野武治.「学生のための精神医学」(医歯薬出版) 2014

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
学修成果物	70%	○	○	○							
総合的に評価する	30%	○	○	○							

注意事項	なし
備考	なし
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030S210	スクールソーシャルワーク(School Social Work)	社会福祉分野系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名　大塚　淳子 E-mail　　内線

授業の概要	本講義では、現代社会における児童・家庭の生活課題と学校現場での課題を理解し、地域社会における学校のあり方「開かれた学校」「チームとしての学校」について学ぶとともに、地域におけるソーシャルキャピタルや福祉サービスと学校とをつなぐ、スクールソーシャルワークの機能や必要性について学ぶ。また、スクールソーシャルワーカーとして子どもの問題を解決する上で、子どもの視点に立ち、家庭と学校、学校と地域、地域と学校の関係性やあり方について理解を深め、子どもの権利や子どもの最善の利益を基盤としたスクールソーシャルワークとは何かを理解する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	スクールソーシャルワークの導入の社会的背景、意義について理解し、説明できる。	○									
目標2	スクールソーシャルワークの展開方法について、ソーシャルワーク実践モデル・理論を用いて、特徴を説明できる。	○									
目標3	スクールソーシャルワークの可能性と課題について説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	スクールソーシャルワークとは―ガイダンスとオリエンテーション
2	子どもと家庭をめぐる諸問題
3	学校における今日的諸問題と今後のあり方―「チームとしての学校」「開かれた学校」
4	スクールソーシャルワークの発展過程（1）
5	スクールソーシャルワークの発展過程（2）
6	スクールソーシャルワークの発展過程（3）
7	ソーシャルワークの視点
8	ソーシャルワークの実践モデル・理論（1）
9	ソーシャルワークの実践モデル・理論（2）
10	スクールソーシャルワークの支援方法（1）小学校での事例を中心に
11	スクールソーシャルワークの支援方法（2）中学校での事例を中心に
12	スクールソーシャルワークの支援方法（3）高校・支援学校での事例を中心に
13	チーム支援と連携（1）平時
14	チーム支援と連携（2）災害時
15	スクールソーシャルワークの可能性と課題

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	小レポート、質疑応答、 グループによる話し合いと意見交換	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	必要な事前学習を行い、講義の内容を理解できるように心がけること（6時間）
事後学修	復習、振り返りを行い、講義の内容を理解できるように心がけること（6時間）

教科書	門田光司・奥村賢一著（2014）「スクールソーシャルワーカー のしごと～学校ソーシャルワーク実践ガイド～」中央法規。随時、必要な資料を配布する。
参考書	参考文献等は適宜紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	60%	○	○	○							
課題などの提出物	20%	○	○	○							
講義への参加態度	20%	○	○	○							

注意事項	なし。
備考	なし。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	熊本県義務教育スクールソーシャルワーカー（6年）、医療ソーシャルワーカー（4年9ヶ月）、知的障害者施設指導員（4年5ヶ月）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
実務経験をいかした教育内容	熊本県義務教育スクールソーシャルワーカー（6年）、医療ソーシャルワーカー（4年9ヶ月）、知的障害者施設指導員（4年5ヶ月）

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P603	臨床実践職能論(lecture on professional ability of clinical psychology practice)	実践職能系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前		氏名　渡辺　亘 E-mail　wwata@oita-u.ac.jp　内線　7585

授業の概要

心理職（公認心理師等）の職能発達の根幹を培うために，職務に関する基礎知識について広く学ぶ。あわせて，現代社会で特に必要となる役割や活動についても考える。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	心理職の使命や職責、活動のねらい、基本的理念について理解し、説明できる。	○	○	○							
目標2	心理職の具体的な業務や役割、またそれらを遂行するために必要な視点、知識、心構え、技能等について理解し、説明できる。	○	○	○							
目標3	現在の自分と関連づけ、今後必要な学びや取り組むべき課題について明確にできる。	○	○	○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	心理職の役割
2	心理職の専門性と心理支援の独自性
3	心理職と心理支援の歴史
4	心理職（公認心理師等）の法的義務；倫理
5	クライエント／患者等の安全確保
6	情報の適切な取り扱い
7	分野・領域ごとの具体的な業務（1）
8	分野・領域ごとの具体的な業務（2）
9	分野・領域ごとの具体的な業務（3）
10	分野・領域ごとの具体的な業務（4）
11	自己課題発見・解決能力
12	生涯学習への準備
13	他職種連携・地域連携
14	心理支援の課題と心理職の今後の展開
15	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・ライティングにより、省察と言語化を促し、学びの深化をはかる。 ・討議やプレゼンテーションにより、主体的で共同的な学びを促す。		・視聴覚教材を用いて具体的な学びを進める。
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	教科書を用いてとりあげるテーマについての予習を行う。
事後学修	配布資料等を利用して復習する。文献等により関連する知識を習得する。

教科書

なし

参考書

公認心理師の基礎と実践　第一巻　公認心理師の職責（野島他　遠見書房）
心理臨床家の手引き（鑪他　誠信書房）

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート課題	40%	○	○	○							
発表・プレゼンテーション	40%	○	○								
ディスカッションへの積極的参加	20%	○	○	○							

レポート課題、発表・プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的参加を総合して評価を行う。

注意事項

なし

備考

なし
【地域創生教育科目】

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公認心理師、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	臨床心理学的支援の概要、心理職の職能についてとりあげる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P603	臨床実践職能論()	実践職能系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3	福祉健康科学部	前	木3	氏名 渡辺 亘 E-mail wwata@oita-u.ac.jp 内線 7585

授業の概要

心理職（公認心理師等）の職能発達の根幹を培うために，職務に関する基礎知識について広く学ぶ。あわせて，現代社会で特に必要となる役割や活動についても考える。

具体的な到達目標

		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	心理職の使命や職責、活動のねらい、基本的理念について理解し、説明できる。										
目標2	心理職の具体的な業務や役割、またそれらを遂行するために必要な視点、知識、心構え、技能等について理解し、説明できる。										
目標3	現在の自分と関連づけ、今後必要な学びや取り組むべき課題について明確にできる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	心理職の役割
2	心理職の専門性と心理支援の独自性
3	心理職と心理支援の歴史
4	心理職（公認心理師等）の法的義務・倫理
5	クライエント／患者等の安全確保
6	情報の適切な取り扱い
7	分野・領域ごとの具体的な業務（1）
8	分野・領域ごとの具体的な業務（2）
9	分野・領域ごとの具体的な業務（3）
10	分野・領域ごとの具体的な業務（4）
11	自己課題発見・解決能力
12	生涯学習への準備
13	他職種連携・地域連携
14	心理支援の課題と心理職の今後の展開
15	まとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認		・ライティングにより、省察と言語化を促し、学びの深化をはかる。 ・討議やプレゼンテーションにより、主体的で共同的な学びを促す。
B:意見の表現・交換		
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

・視聴覚教材を用いて具体的な学びを進める。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	教科書を用いてとりあげるテーマについての予習を行う。
事後学修	配布資料等を利用して復習する。文献等により関連する知識を習得する。

教科書

公認心理師の基礎と実践　第一巻　公認心理師の職責（野島他　遠見書房）

参考書

心理臨床家の手引き（鑪他　誠信書房）

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート課題	40%										
発表・プレゼンテーション	40%										
ディスカッションへの積極的参加	20%										

レポート課題、発表・プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的参加を総合して評価を行う。

注意事項

なし

備考

なし
【地域創生教育科目】

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	臨床心理学的支援の概要、心理職の職能についてとりあげる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P602	実践領域実習Ⅱ（教育・司法）(Practical Training in Psychology II (Educational and Forensic Area))	実践職能系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	福祉健康科学部	通年		氏名　武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・岩野卓・飯田法子・中里直樹 E-mail　t-mizo@oita-u.ac.jp　内線　7522

授業の概要

実際に教育領域，司法矯正領域における支援の現場に出向き，さまざまな課題や困難を抱えた人々の現状を知り，問題意識を育てる。さらに施設や関係者の取り組みについて体験的に学びながら，心理学の専門性を学ぶ上での視点を涵養し，実践者としての基本的資質を身につける。

具体的な到達目標

		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	各領域において課題や困難を抱えた人々の現状ならびに支援（指導）の実態について説明できる。	○	○								
目標2	各領域において課題や困難を抱えた人々に対する理解を深め，援助的関わりについて体験的に学んだことを説明できる。	○	○								
目標3	実習体験を通じて，実践者としての基本的資質を身につけると同時に，それらを説明することができる。	○	○								
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	全体オリエンテーション
2	教育領域実習１（各施設オリエンテーション）
3	教育領域実習2（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
4	教育領域実習3（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
5	教育領域実習4（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
6	教育領域実習5（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
7	教育領域実習6（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
8	教育領域実習7（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
9	教育領域実習8（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
10	教育領域実習9（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
11	司法矯正領域実習1（家庭裁判所）
12	司法矯正領域実習2（少年鑑別所）
13	司法矯正領域実習3（少年院）
14	司法矯正領域実習4（保護観察所）
15	最終報告会

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認		教育領域実習では，実際に困りを抱えた子どもたちと直接関わることによって，講義等で学んだ知識の体験的理解を深めるとともに，子どもたちへの適切な関わり方や支援の方法についても実践的に学べるよう指導している。
B:意見の表現・交換		
C:応用志向		
D:知識の活用・創造	○	

その他の工夫

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	「実習のしおり」ならびに施設に関連する資料を熟読しておくこと。 各施設実習の前に事前学習を行い、レポートを提出する。（4h）
事後学修	実習参加後は，毎回，活動内容，意見・感想などを記載した「活動報告書」を実習先と担当教員に提出する。各施設の実習終了後には最終レポートを提出する。最終報告会では実習体験発表を行う。（4h）

教科書

「実践領域実習のしおり」を熟読すること。
その他，必要な文献等は実習において指示する。

参考書

実習において指示する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定められた時間数以上の実習参加	50%	○	○	○							
活動報告書・最終レポート・最終報告会発表	50%	○	○	○							

注意事項

履修には条件があるので，履修の手引きをよく読むこと。実習中に生じた様々な問題に対応する際には，適宜，施設スタッフに報告して指示を仰ぐ，担当教員に相談する，他の実習生に相談するなど，積極的に対応を考えること。

備考

公認心理師資格要件科目。
全体で45時間以上の活動を目安とする。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師（武内珠美，渡辺亘，溝口剛，河野伸子，池永恵美，岩野卓・飯田法子）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	臨床心理士，公認心理師，学校教諭（指導主事，社会教育主事など），家庭裁判所調査官，法務技官，法務教官，保護観察官
実務経験をいかした教育内容	困りを抱えた子どもたちの理解や関わり方について，また，学生たちが実習中に抱いた困りや疑問に対して，有資格者の教員や指導者が専門性や実務経験を活かした助言等を行う。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P802	実践領域実習Ⅱ(心理実習B)(Practical Training in Psychology II(Practical Training in Psychology B)) *大分を創る科目	実践職能系

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	福祉健康科学部	通年		氏名　武内珠美・渡辺直・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・岩野卓・飯田法子・中島直樹 E-mail　t-mizo@oita-u.ac.jp　内線　7522

授業の概要

実際に教育領域，司法矯正領域における支援の現場に出向き，さまざまな課題や困難を抱えた人々の現状を知り，問題意識を育てる。さらに施設や関係者の取り組みについて体験的に学びながら，心理学の専門性を学ぶ上での視点を涵養し，実践者としての基本的資質を身につける。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	各領域において課題や困難を抱えた人々の現状ならびに支援（指導）の実態について説明できる。	○	○								
目標2	各領域において課題や困難を抱えた人々に対する理解を深め，援助的関わりについて体験的に学んだことを説明できる。	○	○								
目標3	実習体験を通じて，実践者としての基本的資質を身につけると同時に，それらを説明することができる。	○	○								
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	全体オリエンテーション
2	教育領域実習１（各施設オリエンテーション）
3	教育領域実習2（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
4	教育領域実習3（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
5	教育領域実習4（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
6	教育領域実習5（不登校児キャンプ，教育支援センター，自立支援施設分校）
7	教育領域実習6（不登校児キャンプ，教育支援センター）
8	教育領域実習7（不登校児キャンプ，教育支援センター）
9	教育領域実習8（不登校児キャンプ，教育支援センター）
10	教育領域実習9（不登校児キャンプ，教育支援センター）
11	司法矯正領域実習1（家庭裁判所）
12	司法矯正領域実習2（少年鑑別所）
13	司法矯正領域実習3（少年院）
14	司法矯正領域実習4（保護観察所）
15	最終報告会

アクティブラーニング		
A:知識の定着・確認		
B:意見の表現・交換		
C:応用志向		
D:知識の活用・創造	○	

教育領域実習では，実際に困りを抱えた子どもたちと直接関わることによって，講義等で学んだ知識の体験的理解を深めるとともに，子どもたちへの適切な関わり方や支援の方法についても実践的に学べるよう指導している。

その他の工夫：

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	「実習のしおり」ならびに施設に関連する資料を熟読しておくこと。 各施設実習の前に事前学習を行い、レポートを提出する。（4h）
事後学修	実習参加後は，毎回，活動内容，意見・感想などを記載した「活動報告書」を実習先と担当教員に提出する。各施設の実習終了後には最終レポートを提出する。最終報告会では実習体験発表を行う。（4h）

教科書：「実践領域実習のしおり」を熟読すること。
その他，必要な文献等は実習において指示する。

参考書：実習において指示する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定められた時間数以上の実習参加	50%	○	○	○							
活動報告書ならびに最終レポート	50%	○	○	○							

注意事項：履修には条件があるので，履修の手引きをよく読むこと。実習中に生じた様々な問題に対応する際には，速宜，施設スタッフに報告して指示を仰ぐ，担当教員に相談する，他の実習生に相談するなど，積極的に対応を考えること。

備考：公認心理師資格要件科目。
全体で45時間以上の活動を目安とする。

リンク：URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経歴	臨床心理士，公認心理師（武内珠美，渡辺亘，濱口剛，河野伸子，池永恵美，岩野卓・飯田法子）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	臨床心理士，公認心理師、学校教諭（指導主事，社会教育主事など），家庭裁判所調査官，法務技官，法務教官，保護観察官
実務経験をいかした教育内容	困りを抱えた子どもたちの理解や関わり方について，また，学生たちが実習中に抱いた困りや疑問に対して，有資格者の教員や指導者が専門性や実務経験を活かした助言等を行う。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P801	心理学特別研究(Advanced Study In Psychology)	基礎研究科目

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期		氏名　武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・岩野卓・飯田法子・中屋直樹 E-mail　m-ikenaga@oita-u.ac.jp　内線　6107

授業の概要

ゼミごとに心理学的研究における問題・目的の構成から、データ収集、データ処理、考察に至る一連のプロセスを体験し、心理学の方法論全般を体系的に理解し、心理学的な課題の解決に主体的に取り組む態度を育成する。この学習を通じて、現代社会やそこに生きる人間の問題を心理学的な視点から理解し、研究へとつなげる基礎を身につける。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	心理学的な問題意識を論理的に構成し、文章化できる。	○			○						
目標2	研究目的に合致したデータ収集法・データ処理法を選択し実践できる。	○			○						
目標3	得られた結果を適切に考察できる。	○			○						
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	心理学研究法の展開編の概論
2	研究課題のための文献レビューⅠ
3	研究課題のための文献レビューⅡ
4	研究課題と仮説設定
5	方法論全般の設計
6	測定と数量化の計画
7	質問紙等の作成
8	データの収集Ⅰ
9	データの収集Ⅱ
10	データ処理の実際Ⅰ－データファイルの作成
11	データ処理の実際Ⅱ－統計処理
12	結果の読み取りと図表化
13	結果の文章化
14	考察の観点と文章化
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	研究法に関する能動的な調べ学習とグループ・ディスカッションを活用して、学生の動機づけを高め、卒業論文を意識した深い学びに導く。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	研究法等に関する能動的な調べ学習を行い，発表資料を作成する。（15h）
事後学修	発表とグループ・ディスカッションで学んだことを活かし，参考文献等を用いてさらなる課題探究を行う。（15h）

教科書	各ゼミにおいて指示する。
参考書	各ゼミにおいて指示する。 また、適宜、プリント資料を配布する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
調べ学習の成果発表	60%	○	○	○							
ディスカッションへの参加	40%	○	○	○							

注意事項	なし
備考	なし
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士・公認心理師（武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・池永恵美・岩野卓・飯田法子）
実務経験をいかした教育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして，学生の興味関心を活かしたテーマや実践的（臨床的）なテーマを指導できる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P802	卒業課題研究Ⅰ(Graduaction Rosearch Project Ⅰ)	基礎研究科目

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	4年	福祉健康科学部	前期		氏名　武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・岩野卓・飯田法子・中里直樹 E-mail　m-ikenaga@oita-u.ac.jp　内線　6107

授業の概要

卒業論文で取り上げる研究テーマを心理学研究へと具体化していく過程で必要となる知識，研究手法，基礎技術の習得を目的とする。ゼミごとに演習形式で行う。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	文献検索，資料収集の方法に習熟し，当該領域の研究動向をまとめることができる。	○			○						
目標2	それぞれの問題意識を心理学研究にまで立案することができる。	○			○						
目標3	研究目的に応じたデータ収集方法とデータ処理法を選択し，研究実施計画を提案できる。	○			○						
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	卒論作成にむけたオリエンテーション
2	卒論テーマ設定のための文献レビュー1
3	卒論テーマ設定のための文献レビュー2
4	卒論テーマの設定と仮説の検討
5	方法論ならびに要因計画等の検討
6	分析方法の検討
7	質問紙等の作成
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	能動的な調べ学習とゼミでの発表・ディスカッションを通して，卒業論文における研究テーマを設定し，研究目的と研究計画を明確化する。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	研究テーマに関する能動的な調べ学習を行い，ゼミでの発表資料を作成する。(11h)
事後学修	ゼミでの発表ならびにディスカッションをふまえて，さらなる文献レビューを行い，研究目的と研究計画を精緻化する。(11.5h)

教科書

教科書は指定しない。
必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。

参考書

参考書は指定しない。
必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
ゼミでの研究発表	70%	○	○	○							
ディスカッションへの積極的参加	30%	○	○	○							

注意事項

無し。

備考

無し。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士・公認心理師（武内珠美・渡辺亘・樺口剛・河野伸子・池永恵美・岩野卓・飯田法子）
実務経験をいかした教育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして，学生の興味関心を活かしたテーマや実践的（臨床的）なテーマを指導できる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P803	卒業課題研究Ⅱ(Graduaction Research Project II)	基礎研究科目

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	4年	福祉健康科学部	後期		氏名　武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永憲美・岩野卓・飯田法子・中里直樹 E-mail　m-ikenage@oita-u.ac.jp　内線　6107

授業の概要

卒業論文作成において実施した調査や実験から得られたデータの扱い方（量的検討，質的検討など），結果のまとめ方，考察の仕方など，論文作成の方法に関する知識と技能を習得することを目的とする。ゼミごとに演習形式で行う。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	それぞれの研究データに対して適切な処理を実施することができる。	○			○						
目標2	研究データの処理から適切に研究結果を導くことができる。	○			○						
目標3	研究結果に基づき論理的な考察を行うことができる。	○			○						
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	卒論作成に向けたオリエンテーション
2	データの収集1
3	データの収集2
4	データの処理の実際1ーデータファイルの作成
5	データの処理の実際2ー統計処理など
6	結果の読み取りと図表化
7	結果の文章化
8	考察の観点と文章化
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	実際に実験・調査等を実施し，データを収集・処理し，結果をゼミで発表する。ゼミでのディスカッションを通して考察の観点を設定し，論文化する。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	実験・調査等を実施し，データを収集・処理し，ゼミでの発表資料を作成する(11h)。
事後学修	ゼミでのディスカッションをふまえて考察の観点を設定し，論文化の作業を行う(11.5h)。

教科書	教科書は指定しない。 必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。
参考書	参考書は指定しない。 必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
ゼミでの研究発表	70%	○	○	○							
ディスカッションへの積極的参加	30%	○	○	○							

注意事項	無し。
備考	無し。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士・公認心理師（武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・池永憲昊・岩野卓・飯田治子）
実務経験をいかした教育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして，結果の読み取りや考察の観点の設定について，より実践的に指導できる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)
H030P804	卒業研究(Research for Graduation Thesis)	基礎研究科目

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	4	4年	福祉健康科学部	後期		氏名　武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・岩野卓・飯田法子・中里直樹 E-mail　m-ikenaga@oita-u.ac.jp　内線　6107

授業の概要

各学生の問題意識が心理学研究として卒業論文に結実するよう，卒業論文執筆計画ならびに進め方に関する指導を中心に行う。具体的には，問題・目的（問題意識，概念定義，先行研究のレビュー，研究仮説を立てるなど），方法（対象者，材料，手続き，独立変数，従属変数など），結果，考察等の執筆を通して卒業論文を完成させる。また，全体発表会で研究成果を発表する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	研究結果に基づいて卒業論文を執筆できる。	○			○						
目標2	研究によって得られた成果を発表できる。	○			○						
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	卒業論文執筆に向けた概論
2	問題意識の明確化1
3	問題意識の明確化2
4	先行研究の精査1
5	先行研究の精査2
6	研究目的の設定1
7	研究目的の設定2
8	研究仮説の検討
9	対象者の検討
10	手続き・要因計画等の検討1
11	手続き・要因計画等の検討2
12	分析方法の検討
13	倫理的問題の精査
14	質問紙等の作成1
15	質問紙等の作成2
16	データの収集1
17	データの収集2
18	データの処理1
19	データの処理2
20	結果の読み取りと図表の作成
21	結果の文章化
22	考察の観点の検討1
23	考察の観点の検討2
24	卒業論文の執筆1
25	卒業論文の執筆2
26	卒業論文の執筆3
27	卒業論文の執筆4
28	卒業論文発表会1
29	卒業論文発表会2
30	卒業論文発表会3

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	能動的調べ学習，ゼミでのディスカッション，実際の調査，結果の分析等をふまえて卒業論文を執筆し，得られた成果を卒論発表会で発表する。		
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向	○			
D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	当初の問題意識にしたがって，先行研究のレビューや問題設定，研究目的・研究計画の立案，調査の実施，結果の分析などを能動的に行う(45h)。
事後学修	能動的調べ学習や調査によって得られた成果を文章化し，論文を執筆する(45h)。

教科書	教科書は指定しない。 必要な資料・文献は別途指示する。
参考書	参考書は指定しない。 必要な資料・文献は別途指示する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	卒業論文の執筆	60%	○									
	卒論発表会での発表	40%		○								

注意事項	なし。
備考	なし。
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士・公認心理師（武内珠美・渡辺亘・溝口剛・河野伸子・池永恵美・岩野卓・飯山法子）
実務経験をいかした教育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして，論文執筆や成果発表における助言指導をおこなう。